

女性の職業の妊娠の結果に対する効果

The Effects of Women's Occupation on Pregnancy Outcomes

仙田幸子(東北学院大学)

Yukiko Senda (Tohoku Gakuin University)

本研究は、女性の職業が妊娠の結果に与える影響を、人口動態職業・産業別統計を分析することで検討する。人口動態職業・産業別統計は1995年度から2020年度までの6年度分を分析する。妊娠の結果として(1)「人工妊娠中絶する/しない」、(2)「(人工妊娠中絶しない場合)自然流産する/生産する」の2つを検討する。また、女性の職業は、その時代により効果が違う可能性があるため、職業と年次の組み合わせで分析する。職業は、年度間の比較を可能にするため、「管理職、専門・技術職、事務職、販売職、サービス職、保安職、農林漁業職、労務職、不詳、無職」に分類する。

2020年の無職で妊娠が流産に帰結するリスクを基準にすると、1995年には、すべての職業でリスクが高い。2010年に、管理職、販売職、保安職、農林漁業職で同レベルまでリスクが下がる。2015年には専門・技術職、事務職で同レベルまでリスクが下がる。このように、職業により、流産リスクの推移には違いがある。

1995年の無職で妊娠が人工妊娠中絶に帰結するリスクを基準にすると、1995年には、管理職、専門・技術職、保安職で無職と同レベルのリスクであり、事務職、販売職、サービス職、農林漁業職、無職、不詳ではリスクが高い。管理職は2000年以降、リスクが低くなり、そのほかの職業は2010年以降、専門管理職、事務職、販売職、農林漁業職、労務職は2010年にリスクが低くなり、サービス職、保安職は2015年にリスクが低くなる。このように、職業により、人工妊娠中絶リスクの推移には違いがある。

さらに、母親が婚姻しているかしていないかで、職業による流産リスク、人工妊娠中絶リスクの推移には違いがある。例えば、流産リスクは母親が婚姻していると、どの職業においてもリスクが下がるのが早い。

総妊娠の結果の動向を見ると、自然死産の減少より人工妊娠中絶の減少の方が、妊娠の結果に影響を与えている。そこで、人工妊娠中絶を選択しない条件は何かを明らかにすることは妊娠を出生につなげるうえで重要であろう。この点について、職業の特性および母親の婚姻状況という点から考察したい。

※ 本研究は JSPS 科研費 JP22K01907 の助成を受けたものです。